

プリム通信

ぎょうかいねんかん しゅ あい もの わたし
教会 年間テーマ～主に愛された者から主を愛する者へ「私は主を愛する」～

2026 | 愛の季節 | No.5

ショートメッセージ「至高の愛」

ひとがその友のためにいのちを捨てるといふ、
これよりも大きな愛はだれも持っていません。

＜ヨハネの福音書15章13節＞

いま ねんいじょう まえ
今から40年以上も前に、一これも愛、あれも愛、たぶん愛、きつと愛—と歌いだす、インパクトの強い歌謡曲が大ヒットしました。当時は、大人はもとより、幼い子どもたちまでもが、「これも愛、あれも愛♪」とその意味も分からず口ずさんでいたことを思い出します。人は、この歌謡曲に限らず「愛」をテーマとした作品に、なぜか心惹かれますよね。それでは、その「愛」とは具体的にどのようなものなのですか？「愛」の定義とは？改めてそう問われると、一瞬言葉に詰まってしまいますよね。そもそも、「愛」を定義づけるなど、考えたこともない人が多いことと思います。しかし聖書は、「愛」についてははっきりとこう記しています。

愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。
礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、不正を喜ばずに真理を喜びます。

＜コリント人への手紙第一13章4～6節＞

わたしたちが今までイメージしていた「愛」とは、かなり違うのではないのでしょうか。何より、この「愛」を実践して生きるのとは、かなり難しい、いや、はっきりいって無理でしょう。思想哲学の大変発展していた古代ギリシャでは、「愛」というものがその性質に応じて4種類に分けられると考えられていました。

①エロース...肉体的愛 ②フィリア...友愛 ③ストルゲー...親子愛 ④アガペー...無償の愛

エロースは、肉体的欲求を伴う「相手に求める愛」です。ある哲学者はこの愛を「良いもの、美しいものを永遠に『我が物』として持ち続けたい欲望である」とも表現しています。実は、私たち人間がイメージする「愛」のほとんどが、このエロース、すなわち「自己愛」なのです。しかし一方で、聖書が「愛」だと語るものはすべて「アガペー」です。これは、相手に見返りを求めず「自身の利益を犠牲にして与える愛」、まさにエロースの対極にある「愛」です。ですから、先ほどのみことば（愛の定義）を実践するのは、到底不可能と思ったのは至極当然のことなのです。では、このアガペーの愛は、ただの理想や夢物語にすぎないのでしょうか。否、なんとこの愛を、万物の創造主なる神（イエス様）が、今から約2000年前に、私たち人間に対して示してくださったのです。それがイエス様の十字架です。聖書にこう記されています。

神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちに、いのちを得させてくださいました。

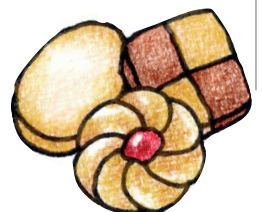
ここに、神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、
神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。

ここに愛があるのです。

＜ヨハネの手紙第一4章9～10節＞

私たちの罪を贖うために、その尊いいのちを惜しみなく死に明け渡し、3日目に死よりよみがえられたイエス様が、あなたにこう呼びかけておられます。「わたしの愛の中にとどまりなさい。」キリスト教会に掲げられている十字架は、あなたへの愛の印です。イエス様の呼ぶ声に応じて、永遠に絶えることのない愛の中を生きるあなたでありますように。

主イエス様の祝福を、心より、お祈りいたします。



にく あらそ お
憎しみは争いをひき起こし、

愛はすべてのそむきの罪をおおう。

しんげん
箴言10章12節

いっさいのことを

愛をもって行ないなさい。

コリント人への手紙第一16章14節

私の愛する方は、

私に語りかけて言われます。

「わが愛する者、美しい人よ。

さあ、立って、出ておいで。

が か
雅歌2章10節

愛されている子どもらしく、

神にならう者となりなさい。

エペソ人への手紙5章1節



そして、これらすべての上に、

愛を着けなさい。

愛は結びの帯として完全なものです。

コロサイ人への手紙3章14節

ことばや口先だけで愛することをせず、

行いと真実をもって愛そうではありませんか。

ヨハネの手紙第一3章18節

わたしの目には、あなたは高価で尊い。

わたしはあなたを愛している。

イザヤ書43章4節

自分の敵を愛し、

迫害する者のために祈りなさい。

マタイの福音書5章44節

すべて主を愛する者は

主が守られる。

詩篇145篇20節



かんしゃ
1月の感謝



私たちの教会の1年の1番最初の礼拝は、1月1日の朝にもたれる新年感謝特別礼拝です。今年は、その礼拝に、他県から帰省中の久しぶりのお友達、また、はじめましての姉妹が参加してくださいました。年の初めにまず、イエス様の前に立つ、その祝福の大きさを覚えて、感謝のスタートとなりました。宗教的行事と縁遠い日常生活を送っている日本人も、元旦の初日の出や初詣は欠かさない人がほとんどだと思います。イエス様は、私たちの永遠の光、決して沈むことのない太陽です。毎年クリスマスが終わると教会はちょっと静かになるので…笑、神社じゃなくて教会に行ってみるのもいいかも！と、年始が教会に足を運んでもらう新たな機会となるように、もっとアピールしていこう！と思わされた1月でした。

☆もっとイエス様を知りたいという方のために、随時、聖書の学びを行っています。お気軽にご連絡ください。☆



2026/2/8

雪の日の日曜日に